

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.161 2017.6.15

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC館内
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 080-9730-1311 FAX:058-293-3384
E-mail: jsei@gifu-u.ac.jp <http://jsei.jp/>

第 33 回年会 8 月 26 日(土)・27 日(日) 〈年会テーマ〉未来を拓く“人間力”を育てる

第 33 回年会は、兵庫県の芦屋大学（六麓荘キャンパス）で開催します。年会のテーマを「未来を拓く“人間力”を育てる」と設定し、比嘉悟学長の記念講演ならびにシンポジウムを開催します。シンポの会場となる国際会議場は、「第 2 回職業指導学国際会議（1980）」が開催された場所で、主要 8 カ国の代表として、初代会長の故・木田宏氏（元文部事務次官）が登壇されていたことを知り、何かしら本学会との深い絆を感じております。さて、今年の研究発表は、約 120 件の申し込みを頂いております。プログラムに掲載しておりますが、課題研究 6 セッションと一般研究 9 セッションを 2 日間に分かれ横断的に進めてまいります。多数の申し込み本当にありがとうございました。

一方、新たな年会の運営方策として、教育関連の企業（10 数社様）からの広告掲載ならびに企業展示を企画し産学連携色を深めてみました。これらのサポートにより、懇親会では文化的なエンターテインメントを鑑賞いただきながら、ゆったり交流できるような、おもてなしを考えております。大学の北側には六甲山がそびえたち、海側は遠く関空まで大阪湾を眺望でき、夜には珠玉の夜景をお楽しみ頂けると思います。なお、この時期、全国高校野球大会（甲子園）や USJ など、関西では多くの夏イベントが開催されますので、早目の宿泊予約をお勧めします。玄関口となる JR 芦屋駅は、大阪からも神戸からも好アクセスの立地です。各芦屋駅からは、無料の学園送迎バスを運行しておりますが、朝の受付前後は、大変込み合う可能性がありますので早目のご乗車をお勧めします。

このニューズレターの発送がおわりますと、予稿集の編集作業に取り掛かります。発表原稿は、Web からの投稿となっておりますので、何卒、期限厳守でお願いいたします。

第 33 回年会実行委員長
藤本光司(芦屋大学)

◆ 第 33 回年会 開催要項

期 日：2017年8月26(土)・27(日)

会 場：芦屋大学 六麓荘キャンパス

<所在地> 〒659-0011 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22

事務局：芦屋大学技術研究棟 若杉研究室

<E-mail> jsei-nenkai@jsei.jp

年会 HP：http://jsei.jp/nenkai/nenkai33

後 援：兵庫県教育委員会，芦屋市教育委員会

日 程：

1 日目 8月26(土)	
9:00 ~	受 付
10:00 ~ 12:00	<課題研究> ICT活用研究会【A会場(3階)】 教職開発研究会【B会場(3階)】 教育資料研究会【C会場(3階)】 国際交流研究会【D会場(2階)】 特別支援教育AT研究会【E会場(2階)】 デジタルアーカイブ研究会【F会場(2階)】
12:00 ~ 13:00	昼食 理事会・評議員会【会議室(4階)】
13:10 ~ 13:55	総会・学会賞表彰式【国際会議場(4階)】
13:55 ~ 14:35	研究会活動報告【国際会議場(4階)】
14:45 ~ 15:45	<記念講演> 未来を拓く“人間力”を育てる－教育とスポーツを貫く芯－ 講演者：比嘉 悟(芦屋大学学長)【国際会議場(4階)】
16:00 ~ 17:30	<シンポジウム>【国際会議場(4階)】 コーディネータ：藤本 光司(芦屋大学) シンポジスト 沖 裕貴(立命館大学) 高田 英一(神戸大学) 郡司 穰(独立行政法人国際協力機構) 高橋 麻司(芦屋大学大学院生，元 DAIKIN CONDITIONING FRANCE 企画部長/ダイキン工業株式会社) 伊田 義信(森ノ宮医療大学) 竹谷 房寛(株式会社 大塚商会 LA プロモーション G)
18:00 ~ 19:45	懇親会【※Aホール】

※懇親会会場まではスタッフがご案内しますので1階受付にお集まりください。

2 日目 8月27(日)	
9:00 ~	受 付
10:00 ~ 12:00	<課題研究> ICT活用研究会【A会場(3階)】 教職開発研究会【B会場(3階)】 <一般研究> 教育方法①【C会場(3階)】 教材開発①【D会場(2階)】 情報教育①【E会場(2階)】 教科教育【F会場(2階)】
12:00 ~ 13:30	昼食・運営委員会
13:30 ~ 15:45	<一般研究> 学習評価【A会場(3階)】 教育実践【B会場(3階)】 教育方法②【C会場(3階)】 教材開発②【D会場(2階)】 情報教育②【E会場(2階)】
16:00 ~ 17:00	合同研究会【G会場(2階)】

◆ 記念講演

未来を拓く“人間力”を育てる－教育とスポーツを貫く芯－

講演者：比嘉 悟（芦屋大学学長）

本学は、初代総長の福山重一博士が、職業指導学を基盤に建学の精神を「人それぞれ天職に生きる」と掲げ、今年で創設 53 年目を迎える。この建学の精神は、変化の激しい現代社会を生き抜くための揺るぎないメッセージである。文科省は、教育目的の一つに「生きる力」を示している。一方、内閣府は、市民生活や職業生活、さらには文化生活をも含めて、国民の生活全般を支える能力基盤として「人間力」を検討してきた。これらは相反するものではなく、双方とも説得力のある概念である。今後の社会変化によって、新たな職業が生まれ、働き方自体も変化していくだろう。今回の講演では、教育とスポーツを基軸とした私の教育経験を振り返りながら、チーム力、自主性、実践力、指導力などの側面から、人それぞれが天職に生きるための人間力について述べたい。

◆ シンポジウム

テーマ：未来を拓く“人間力”を育てる

<コーディネーター>藤本 光司 [芦屋大学]

昨年度のテーマ「人間力を考える」を継承する形で、今年度は「人間力を育てる」と設定しました。10年後20年後の社会変化が予測不能と言われる昨今、第4次産業革命と呼ばれる人工知能、ビッグデータ、ロボットなどによる急速な変化が目に見えないところで進行しています。このような将来予測が難しい社会であっても、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、主体的に学び続け、自らの能力を引き出し、多様な他者と協働し、新たな価値を生み出し、よりよい社会や人生を切り拓く資質・能力の育成が大人にも子どもにも求められています。本学会は、初等、中等教育の教職員や高等教育の専門家、一方では企業人など、教育にかかわる多様な会員で構成されています。そこで、各シンポジストからの提案に基づき、「未来を切り拓く“人間力”を育てる」をテーマに、会場の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

<シンポジスト>

- ・伊田 義信 [森ノ宮医療大学、元芦屋市教育委員会学校教育部部長]
新学習指導要領のポイントなど、学校教育や教育行政の観点から
- ・沖 裕貴 [立命館大学]
人工知能の発達による教育環境の変化など、高等教育開発の観点から
- ・郡司 穰 [国際協力機構 (JICA 関西)]
国際理解教育(開発教育)や青年海外協力隊派遣など、グローバルな人材育成の観点から
- ・高田 英一 [神戸大学]
教学と IR (Institutional Research) など、データ収集や組織的評価の観点から
- ・高橋 麻司 [芦屋大学大学院生、元 DAIKIN AIRCONDITIONING FRANCE 企画部長]
生涯学習や社会人の学び直しなど、キャリア教育、外国人との協働の観点から
- ・竹谷 房寛 [(株) 大塚商会 LA プロモーション G]
プログラミング教育、ICT 活用、未来の教室整備など、企業の観点から

課題研究発表 26日(土)

ICT活用研究会

26日(土) 10:00~12:00 【A会場(3階)】

座長：河野敏行(岡山理科大学)，加藤直樹(岐阜大学)

- 1AA1 遠隔プログラミングサポートシステムー受講者アンケート調査結果についてー
河野敏行(岡山理科大学)
- 1AA2 「マッピング検索法」が学習観に及ぼす影響
南匡彌(岐阜大学)，加藤直樹(岐阜大学)
- 1AA3 教員のICT活用指導力の向上を目指した実践研究
相澤崇(都留文科大学)
- 1AA4 ICTを活用した授業づくりのための「豊かな学びデザインマップ」の導入
及川浩和(中日本自動車短期大学)，加藤直樹(岐阜大学)，
埴岡靖司(山県市立桜尾小学校)
- 1AA5 ICTを活用した豊かな学びをデザインできる教師への働きかけ
埴岡靖司(山県市立桜尾小学校)，加藤直樹(岐阜大学)，
及川浩和(中日本自動車短期大学)
- 1AA6 クラウド系ソフト Prezi を使用した卒論指導の試み
ーPrezi を使用したブレインストーミング，集団討論，研究マネージメントー
落合俊郎(大和大学)
- 1AA7 テクノロジーの活用を意味づける「豊かな学びのデザインマップ」の開発Ⅱ
加藤直樹(岐阜大学)，鷹岡亮(山口大学)，上市善章(千葉県教育庁)，
村松祐子(富士通株式会社)，相部礼子(富士通株式会社)，
及川浩和(中日本自動車短期大学)，埴岡靖司(山県市立桜尾小学校)

教職開発研究会

26日(土) 10:00~12:00 【B会場(3階)】

座長：森雅生(東京工業大学)，武田正則(国立仙台高等専門学校)

- 1AB1 授業貢献度測定システムによるグループ編成法の提案
武田正則(国立仙台高等専門学校)，海野啓明(国立仙台高等専門学校)，
兼下英司(国立仙台高等専門学校)
- 1AB2 学修ルーブリックの開発とIRでの利用方法
小松香爾(文京学院大学)
- 1AB3 ディプロマ・ポリシーによる大学比較ー大学と地域社会の関わりに着目してー
小柏香穂理(宇都宮大学基盤教育センター)，森雅生(東京工業大学)，
廣川佐千男(九州大学情報基盤研究開発センター)
- 1AB4 インペリアル・カレッジ・ロンドンのストラテジック・プランから見える傾向
森雅生(東京工業大学)，小野寺理香(東京工業大学)

- 1AC1 子どもたちの「新たな学びの空間」の在り方に関する試行的研究
ーニーズ調査の結果よりー
齋藤陽子(岐阜女子大学)，吉村希至(岐阜女子大学)，
本田法子(アピ株式会社)
- 1AC2 教育の新動向と学校図書館 ー教育情報のアーカイブ化に向けてー
荒川久美(岐阜女子大学)
- 1AC3 サンドアートシアター体験の追跡調査
ー新任保育者の保育現場における表現活動についてー
伊藤久美子(愛知文教女子短期大学)
- 1AC4 学校教育における伝統・文化を用いた教育実践について
梅谷拓宣(静岡県立天竜高等学校)
- 1AC5 プログラミング教育の効果的な教材開発に関する実践研究
ー親子講座の事例分析を通してー
小林祐一(沖縄女子短期大学)，大森洋介(㈱アイウェイズコンサルティング)
- 1AC6 レスポンスアナライザーを活用した発問応答の時系列分析Ⅱ
ーレスポンスアナライザーと授業改善ー
堀信哉(大垣市立南中学校)，久世均(岐阜女子大学)，
齋藤陽子(岐阜女子大学)
- 1AC7 遠隔と対面教育における教育効果の実証
ー免許状更新講習における遠隔と対面における教育効果ー
久世均(岐阜女子大学)

- 1AD1 中規模人数による海外体験型プログラムの実践
ー関西国際大学グローバルスタディプログラムの事例よりー
陳那森(関西国際大学)，山下泰生(関西国際大学)
- 1AD2 グローバルリーダー育成を目的とした教育プログラムの展開
ー関西国際大学におけるオナーズプログラムの導入計画から開始までー
山下泰生(関西国際大学)，陳那森(関西国際大学)
- 1AD3 コンピテンス獲得に着目した教養教育デザイン
ー歴史教育分野における海外実践の適用可能性等を中心にー
宮浦崇(九州工業大学)
- 1AD4 日中通訳授業における効果検証 ー生徒の授業評価と感想を中心としてー
袁廣偉(曲阜師範大学)，韓慧(曲阜師範大学)
- 1AD5 日中における看護教育課程の比較研究
韓慧(曲阜師範大学)，袁廣偉(曲阜師範大学)
- 1AD6 タイの大学における国際戦略 ーチェンマイ大学の留学生戦略ー
小川勤(山口大学)

- 1AE1 視線入力と外部機器制御を用いた 障害の重い児童生徒の教材開発(2)
ー自作教材製作環境の普及ー
大杉成喜(皇學館大学)、塩塚敬介(熊本大学)
- 1AE2 教員を対象とした特別支援教育教材ポータルサイトを活用したワークショップ
パッケージの試作
新谷洋介(国立特別支援教育総合研究所)、金森克浩(日本福祉大学)
- 1AE3 特別支援学校における ICT の活用に関する教員の意識調査
星川良太(愛媛県立今治特別支援学校)、荻田知則(愛媛大学)、
八木良広(愛媛大学)
- 1AE4 重度・重複障害児への視線入力教材の開発
塩塚敬介(熊本大学)、大杉成喜(皇學館大学)
- 1AE5 特別支援教育現場の教材自作における個別対応力向上に向けて
ーデジタルファブリケーション技術の導入支援活動を通じてー
篠田幸雄(情報科学芸術大学院大学)
- 1AE6 儀式的学校行事における視覚支援の効果と課題Ⅱ
佐原恒一郎(千葉県立矢切特別支援学校)
- 1AE7 肢体不自由児のタブレット入力評価アプリの開発
ー高等専門学校との連携によるアプリ開発ー
金森克浩(日本福祉大学)、佐野将大(香川県立高松養護学校)、
吉本定伸(東京工業高等専門学校)

- 1AF1 地域の歴史デジタルアーカイブ化における諸課題の1考察
ー「学校の歴史デジタルアーカイブ」構築事例からー
皆川雅章(札幌学院大学)
- 1AF2 地域デジタルコモنزの概念とその構築
ー信州デジタルコモنز『わたしたちの信州』の創成 モデルー
前川道博(長野大学)
- 1AF3 テキストマイニングによる「伝統文化オーラルヒストリー」デジタルアーカイブ
の利用効果に関する分析
谷里佐(岐阜女子大学)
- 1AF4 ドローンを用いた地域資料のデジタルアーカイブと教材化
横山隆光(岐阜女子大学)、加藤直樹(岐阜大学)、興戸律子(岐阜大学)、
山崎宣次(中部学院大学)、及川浩和(中日本自動車短期大学)、
加藤真由美(岐阜女子大学)
- 1AF5 地域ガイドと女子大生が協働してつくる新たなまち歩きコース
ー課題解決型デジタルアーカイブの開発ー
又吉斎(沖縄女子短期大学)
- 1AF6 知識基盤社会におけるデジタルアーカイブ活用
ーデジタルアーカイブによるナレッジマネジメントー
井上透(岐阜女子大学)

◆ 課題研究発表 27日(日)

ICT活用研究会	27日(日) 10:00~12:00 【A会場(3階)】
座長：坂井岳志(世田谷区立八幡小学校), 片柳木の実(調布市立石原小学校)	

- 2AA1 小学校におけるプログラミング教育の授業実践と考察ー白板ソフトを使ってー
片柳木の実(調布市立石原小学校), 坂本勝((株)マイクロブレイン),
小山万作(世田谷区立弦巻小学校)
- 2AA2 フェルトボール算数のデジタル展開ー思考過程の可視化による思考癖の分析ー
上野真弓(家庭教育力研究所)
- 2AA3 小学校におけるプログラミング教育導入の検討
ーViscuitワークショップとその効果ー
豊福晋平(国際大学)
- 2AA4 ICTを活用した学びのデザイン
反田任(同志社中学校・高等学校)
- 2AA5 白板ソフトを使ったプログラミング教育の実践
小山万作(世田谷区立弦巻小学校), 坂本勝(株式会社マイクロブレイン)
- 2AA6 標的型メールによる意図的脅威に対する気づきを促すeラーニング教材の開発
増山一光(県立神奈川総合産業高等学校)
- 2AA7 「バイリンガル百人一首かるた」と「音声詠みあげソフト」の開発
ー白板ソフトでのスマホ用アプリを活かしてー
坂井岳志(世田谷区立八幡小学校), 坂本勝(マイクロブレイン),
岸上英幹(千年文化サークル), 柏木功(千年文化サークル)

教職開発研究会	27日(日) 10:00~12:00 【B会場(3階)】
座長：高田英一(神戸大学), 坂本徳弥(椋山女学園大学)	

- 2AB1 授業技術紹介のための示範授業ビデオの制作
坂本徳弥(椋山女学園大学)
- 2AB2 研究系IRの取り組み実践と課題ー岐阜大学を事例にー
小林邦彦(総合地球環境学研究所), 加藤直樹(岐阜大学),
大矢豊(岐阜大学), 福士秀人(岐阜大学)
- 2AB3 連合農学大学院における博士課程留学生受入れ状況分析
金川久美子(九州大学), 上柙司(九州大学),
中藤哲也(九州大学情報基盤研究開発センター),
廣川佐千男(九州大学情報基盤研究開発センター)
- 2AB4 国立大学の教育に関する経営計画の課題とIRの支援のあり方
高田英一(神戸大学)

◆ 一般研究発表 27日(日)

教育方法①	27日(日) 10:00~11:30 【C会場(3階)】
座長：山下泰生(関西国際大学), 立野貴之(松蔭大学)	

- 2AC1 看護の安全教育における学習支援システムの検証
立野貴之(松蔭大学), 館秀典(東京福祉大学), 風岡たま代(松蔭大学)
- 2AC2 コンピテンシー育成を目的とした映像制作・発信型プロジェクトの実践と評価
加藤亮介(十文字学園女子大学), 安達一寿(十文字学園女子大学)

- 2AC3 相互評価を取り入れた授業改善に関する研究
成瀬喜則(富山大学), 盛本茂(富山県総合教育センター)
- 2AC4 状況的学習の主体性向上に関する分析 –授業外学習の促進について–
鬼木一直(東京富士大学)
- 2AC5 ビデオ会議システムの教育の方法と技術としての利用
佐々木真理(京都教育大学)
- 2AC6 実践結果から見えてきた反転授業の課題と実施方式に関する一提案
山下泰生(関西国際大学), 陳那森(関西国際大学), 佐藤広志(関西国際大学),
窪田八洲洋(関西国際大学)

教材開発①

27日(日) 10:00~12:00 【D会場(2階)】

座長：福井正康(福山平成大学), 吉井直子(奈良女子大学)

- 2AD1 College Analysis 機能報告 –生存時間分析–
福井正康(福山平成大学), 呉暁娜(福山平成大学)
- 2AD2 生存時間分析によるタッチタイピングの修得効果の測定
奥田由紀恵(福山平成大学)
- 2AD3 G I S と C G を統合化した 3次元建物モデルの自動生成による環境教育支援システム
村瀬孝宏(中京学院大学), 杉原健一(岐阜経済大学)
- 2AD4 宇宙を素材とする学習活動 –求められる情報提供の在り方–
桜庭望(宇宙航空研究開発機構)
- 2AD5 地域を学ぶデジタル教材の開発とその構成
–山県市における「小学生用デジタル博物館」の開発と構成について–
瀬ノ上裕(岐阜女子大学)
- 2AD6 Scratch プログラミング学習者向けの発展的学習教材の考案
矢野口聡(松本大学松商短期大学部), 室谷心(松本大学)
- 2AD7 歴史読本「守山から日本の歴史を見る」の刊行
–歴史読本の普及・活用をめざして–
奥村信夫(守山市立守山南中学校)
- 2AD8 幼児期における空間認識能力と図形教育
吉井直子(奈良女子大学), 篠澤和恵(奈良女子大学),
高田雅美(奈良女子大学), 駒谷昇一(奈良女子大学), 城和貴(奈良女子大学)

情報教育①

27日(日) 10:00~11:45 【E会場(2階)】

座長：神月紀輔(京都ノートルダム女子大学), 市川隆司(大阪信愛女学院短期大学)

- 2AE1 情報モラル指導に関わる基礎的研究 –学生にとっての効果的な指導とは–
神月紀輔(京都ノートルダム女子大学),
東郷多津(京都ノートルダム女子大学), 堀出雅人(華頂短期大学)
- 2AE2 大学生の SNS におけるコミュニケーションに関する特徴分析
黒島彬子(琉球大学), 相澤崇(都留文科大学)
- 2AE3 PISA2015 ICT 活用調査における日本 –教育情報化の現状と課題–
豊福晋平(国際大学)
- 2AE4 大阪府吹田市教育センターの作成した『情報教育における小・中一貫カリキュラム』についての考察
松本宗久(大和大学)

- 2AE5 高等専門学校ウェブサイトの現状と課題
ー全国高等専門学校のウェブサイトの調査を通してー
萩原涼介(津山工業高等専門学校), 神崎拓人(株式会社 Aiming),
藤田一寿(津山工業高等専門学校/電気通信大学)
- 2AE6 LINE メールコミュニケーションにおけるスタンプ,顔文字,絵文字の捉え方
に関する性差
加藤由樹(相模女子大学), 小澤康幸(明星大学), 加藤尚吾(東京女子大学),
立野貴之(松蔭大学)
- 2AE7 短期大学生の情報セキュリティに関する学習状況の検討
市川隆司(大阪信愛女学院短期大学), 井内伸栄(大阪信愛女学院短期大学)

教科教育

27日(日) 10:00~11:45 【F会場(2階)】

座長：中嶋健二(三木市立三木中学校), 木原裕紀(大阪府立寝屋川高等学校)

- 2AF1 「主体的・対話的で深い学び」に挑む技術教育の研究(1)
ー兵庫県中学校技術・家庭科教育の研究と試行的取組を通じてー
中嶋健二(三木市立三木中学校), 藤本光司(芦屋大学)
- 2AF2 アクティブラーニングを取り入れたプログラミング教育の実践と評価(1)
ー高校生を対象としたビジュアルコンピューティングの活用を通してー
納庄聡(甲子園学院高等学校), 若杉祥太(芦屋大学), 林徳治(甲子園大学)
- 2AF3 教育実習中における教育実習支援モデルの成果 (1)
高橋麻司(芦屋大学大学院), 若杉祥太(芦屋大学), 藤本光司(芦屋大学)
- 2AF4 知的創造サイクルを用いたわらべ歌の保管活用方法の研究
新垣さき(沖縄女子短期大学)
- 2AF5 美術科教育における皮革教材の研究(2)
土肥由起子(宝塚市立宝塚中学校), 浅海真弓(兵庫教育大学)
- 2AF6 駄菓子屋フェルトボール算数 ー10個のフェルトボールで駄菓子を買おうー
上野真弓(家庭育力研究所)
- 2AF7 数学的コミュニケーション活動による協調的問題解決能力の向上に関する
実証研究(3)
木原裕紀(大阪府立寝屋川高等学校), 納庄聡(甲子園学院高等学校),
若杉祥太(芦屋大学), 小柴慶太(salesforce.com Co.,Ltd.),
林徳治(甲子園大学)

学習評価

27日(日) 13:30~15:45 【A会場(3階)】

座長：白川雄三(大阪学院大学), 安達一寿(十文字学園女子大学)

- 2PA1 学生の自主的活動の自由記述の内容分析と評価指標開発の試行
安達一寿(十文字学園女子大学), 星野祐子(十文字学園女子大学),
石川敬史(十文字学園女子大学), 加藤亮介(十文字学園女子大学)
- 2PA2 共通教育カリキュラム改革の成果と課題
ーアンケート調査から見えてくるものー
小川勤(山口大学)
- 2PA3 工学系学生に向けたアクティブラーニング支援の考察
ーピア・ラーニング推進体制構築と実践に伴う評価を中心にー
宮浦崇(九州工業大学)

- 2PA4 初任教員が記述した通知表所見の分析
山崎宣次(中部学院大学), 掛川淳一(兵庫教育大学),
小川修史(兵庫教育大学), 加藤直樹(岐阜大学), 横山隆光(岐阜女子大学),
森広浩一郎(兵庫教育大学), 興戸律子(岐阜大学)
- 2PA5 学生の授業満足度の決定要因 –松蔭大学におけるエビデンス–
松浦広明(松蔭大学)
- 2PA6 自由英作文における効果的な評価指標の導出
岸康人(松蔭大学), 金宰郁(松蔭大学), 立野貴之(松蔭大学)
- 2PA7 学習者の心理面からみた NLP 学習の授業分析 (1)
–NLP に対するイメージ調査–
中川麻織(株式会社シグナス), 赤松辰彦(株式会社シグナス)
- 2PA8 学習者の心理面からみた NLP 学習の授業分析 (2)
–NLP 講座における学習者の「つまずき」に関する調査分析–
赤松辰彦(株式会社シグナス), 中川麻織(株式会社シグナス)
- 2PA9 ルーブリック評価に関する統計分析 2
白川雄三(大阪学院大学), 高田裕文(大阪学院大学),
高橋誠(大阪学院大学), 金崎暁子(大阪学院大学)

教育実践	27日(日) 13:30~15:30 【B会場(3階)】 座長：沖裕貴(立命館大学), 登本洋子(東北大学)
------	---

- 2PD1 探究的な学習を支える ICT スキルの検討
登本洋子(東北大学), 堀田龍也(東北大学)
- 2PD2 対話的な学びにおける情報端末活用の特徴に関する検討
山本朋弘(鹿児島大学)
- 2PD3 大学間交流研究会を利用した「学生の交流の学びデザイン」の考察
若山昇(帝京大学), 立野貴之(松蔭大学),
飯箸泰宏(一般社団法人協創型情報空間研究所)
- 2PD4 初年次教育におけるアクティブラーニングの研究(3)
藤本光司(芦屋大学), 齋藤治(芦屋大学), 森下博行(芦屋大学),
若杉祥太(芦屋大学), 成瀬優享(芦屋大学), 井村薫子(芦屋大学),
池田聡(芦屋大学)
- 2PD5 自動車整備士養成における PBL 授業プログラムの開発と導入効果 (1)
–車両製作を通じた課題解決能力の向上–
成瀬優享(芦屋大学), 大西昌哲(芦屋大学), 藤本光司(芦屋大学),
盛谷亨(芦屋大学), 齋藤治(芦屋大学), 若杉祥太(芦屋大学)
- 2PD6 高校教員の「ヤングケアラー(ケアを担う子ども)」に対する認識の現状と今後の課題
–大阪府の公立高校における質問紙調査の結果より–
濱島淑恵(大阪歯科大学), 宮川雅充(関西学院大学)
- 2PD7 開放制教職課程での教育実習準備における自校教育の役割
柳元和(帝塚山大学), 元根朋美(帝塚山大学)
- 2PD8 乳幼児ふれあい体験の効果的プログラムの実践
–学年全体開催とゼミでの少人数継続開催との比較を通して–
大谷彰子(芦屋学園短期大学), 木下隆志(芦屋学園短期大学),
大江まゆ子(芦屋学園短期大学), 岸本朝予(芦屋学園短期大学)
- 2PD9 「学生参画」の概念の再整理–新たな「学生連携」の概念をどう捉えるか?–
沖裕貴(立命館大学)

教育方法②

27日(日) 13:30~15:30 【C会場(3階)】

座長：中道上(福山大学), 林泰子(芦屋学園短期大学)

- 2PC1 視認性と直観性を考慮したプレゼンテーション支援: Remote Touch Pointing
中道上(福山大学), 渡辺恵太(株式会社 DNP デジタルソリューションズ),
天早健太(福山大学工学研究科), 杉原慶哉(福山大学工学研究科),
山田俊哉(NTT テクノクロス株式会社)
- 2PC2 日本におけるバレー教育について
井村薫子(芦屋大学), 新谷佳冬(芦屋大学), 佐藤真左美(芦屋大学),
藤本光司(芦屋大学)
- 2PC3 記憶再生マップによる児童の概念形成と学習内容の理解について
古川美樹(有田町立有田中部小学校), 角和博(佐賀大学),
岩永雅也(放送大学)
- 2PC4 学校におけるタブレット PC の効果的な活用に関する調査研究
ー実践校における ICT 環境状況ー
興戸律子(岐阜大学), 加藤直樹(岐阜大学), 横山隆光(岐阜女子大学),
松原正也(岐阜大学), 伊藤宗親(岐阜大学)
- 2PC5 Python プログラミング学習支援システムの開発
木田光彦(株式会社ビープラウド), 立野貴之(松蔭大学),
清原弘貴(株式会社ビープラウド)
- 2PC6 幼児期の科学教育に関する一考察
ー幼児が法則性や一般性に気付く体験についてー
大森雅人(神戸常盤大学)
- 2PC7 ピア・メディエーション
ー対話による紛争解決を基軸にした新たな教育プログラム大阪府立学校の実践を
通してー
津田尚廣(特定非営利活動法人シヴィル・プロネット関西)
- 2PC8 幼児教育課程履修者を対象とした情報モラル教育に関する実践と評価(1)
ー短期大学生を対象としたアンケート調査と取り組みー
林泰子(芦屋学園短期大学), 若杉祥太(芦屋大学),
納庄聡(甲子園学院高等学校)

教材開発②

27日(日) 13:30~15:30 【D会場(2階)】

座長：尾崎誠(福山平成大学), 工藤雄司(茨城大学)

- 2PF1 学生情報管理データベースの構築
尾崎誠(福山平成大学)
- 2PF2 ブレッドボード電子回路実習教材研究
齋藤治(芦屋大学), 森寄功(芦屋大学), 森下博行(芦屋大学)
- 2PF3 演習用合成抵抗ボード教材を用いた電気配線構築力育成の考察
森寄功(芦屋大学), 齋藤治(芦屋大学), 渡康彦(芦屋大学)
- 2PF4 Moodle を使った e-Learning 英語学習に関するアンケート調査
細川光浩(福山平成大学), 渡辺清美(福山平成大学), 小篠敏明(広島大学)
- 2PF5 肢体不自由な生徒の学習を支援する教具の開発と試用
ーウェアラブルデバイスを用いた試みー
森石峰一(大阪電気通信大学)

- 2PF6 中学校でのプログラミング教育について
ーコロックルを使ったプログラミング学習ー
坂本雅直(株式会社トップマン), 木村義行(株式会社トップマン),
岡田圭司(株式会社トップマン)
- 2PF7 中学校技術教育におけるプログラミング学習教材の提案
山崎正(山崎教育システム株式会社)
- 2PF8 情報教育の体系化に向けた「情報の科学的な理解」のための論理回路教材の実
践提案
工藤雄司(茨城大学), 本村猛能(群馬大学), 山本利一(埼玉大学),
本郷健(大妻女子大学), 森山潤(兵庫教育大学)

情報教育②

27日(日) 13:30~15:15 【E会場(2階)】

座長：本郷健(大妻女子大学), 阿久津毅(昭和学院短期大学)

- 2PE1 逆向き設計論を援用した情動的な見方・考え方の授業設計の提案
本郷健(大妻女子大学), 本村猛能(群馬大学), 山本利一(埼玉大学),
鹿野利春(国立教育政策研究所), 永井克昇(千葉商科大学),
齋藤実(埼玉県立大宮高等学校), 春日井優(埼玉県立川越南高等学校),
石井政人(埼玉県立三郷北高等学校)
- 2PE2 学生の情報教育に対する意識と成績に関する分析
安村薫(松蔭大学), 立野貴之(松蔭大学), 加藤尚吾(東京女子大学),
加藤由樹(相模女子大学)
- 2PE3 大学生のPCの授業に対する意識とスキルに関する一考察
金宰郁(松蔭大学), 岸康人(松蔭大学), 加藤尚吾(東京女子大学),
加藤由樹(相模女子大学), 立野貴之(松蔭大学)
- 2PE4 普段のCMCの利用意識が電子メールの利用意識に及ぼす影響
大沢裕(松蔭大学), 立野貴之(松蔭大学), 加藤由樹(相模女子大学),
加藤尚吾(東京女子大学)
- 2PE5 認知症予防を目的とした後期高齢者向けコンピュータ学習研究会におけるエビ
ソード記憶
角田真二(十文字学園女子大学)
- 2PE6 情報リテラシーの理念が埋め込まれた公立図書館活動の考察
石川敬史(十文字学園女子大学)
- 2PE7 電子黒板利用の授業と短期大学生の情報知識
阿久津毅(昭和学院短期大学)

◆ 合同研究会 16:00~17:00 【G会場(2階)】

今回の年会最後のプログラムとして合同研究会を開催いたします。主な内容は、①各研究会の活動報告②学会や他の研究会への提案③情報の共有④研究会の成果の還元⑤今後の研究会の在り方についてです。研究会に所属していない方々の参加も歓迎いたします。是非ご参加ください。

発表者の方へ

◎WEB上の原稿提出フォームからお申込みください。

<原稿提出方法>

①発表申込みをされた方

5月12日(金)頃に、『発表の可否』をメールで連絡いたしました。メールが届いていない場合、または本誌に発表の掲載がない場合は、年会事務局までご連絡下さい。

②発表を可とされた方

年会HP「原稿提出方法」より執筆要項をダウンロードしていただき、ご参照ください。

③原稿の提出について

枚数は課題研究4枚、一般研究2枚とします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、年会HP内の「原稿提出方法」をご確認の上、「原稿提出フォーム」よりデジタル原稿(PDFファイル)で年会事務局にご提出下さい。また、原稿のファイル名には各発表論題の4桁の発表コードのみを付けてください。(例 1AA1.pdf)

原稿提出受付期間 6月1日(木)～7月14日(金) 深夜12時(締切厳守)

年会参加申込方法

◎WEB上の参加申込みフォームからお申込みください。

必要な参加費等を下記口座にお振込みの後、第33回年会HP内の「参加申込み」をご確認の上、「参加申込みフォーム」に必要事項をご入力いただき、送信してください。(発表申込者必須)

入力をいただいたメールアドレス宛てに『申込み完了メール』が送信されます。

申込締切日<8月7日>を過ぎた場合は、当日受付となり一切の振り込みを認めません。その場合、参加費は当日扱いとなります。

◆ 参加料

- ・会員<事前申込> 参加費 3,000円
- ・会員<当日> 参加費 4,000円
- ・非会員 参加費 4,000円

◆ 年会論文集代 3,500円

◆ 懇親会費 5,000円

【振込先】

銀行名 三菱東京UFJ銀行
名義 日本教育情報学会
年会企画委員会
支店名 芦屋支店
種別 普通預金
口座番号 0171778

-参加申込み手順-

参加費等振り込み

Web参加申込みフォーム
に必要事項記入

送信

申込完了メール受信

申込締切日：8月7日(月)

参加申込受付期間 6月1日(木)～8月7日(月)(締切厳守)

※年会に参加されないで論文集購入を希望される方へ <<郵送申し込みについて>>

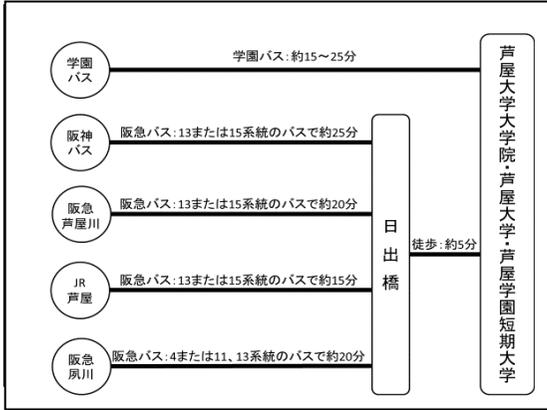
年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、上記振込先へ論文集代をお振り込みのうえ、年会HP内の「各種申込」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。年会終了後に論文集を送付します。

●論文集：4,000円(本体、郵送料等を含む)

●論文集郵送申込期間：6月1日(木)～8月7日(月)深夜12時

◆ 会場アクセス

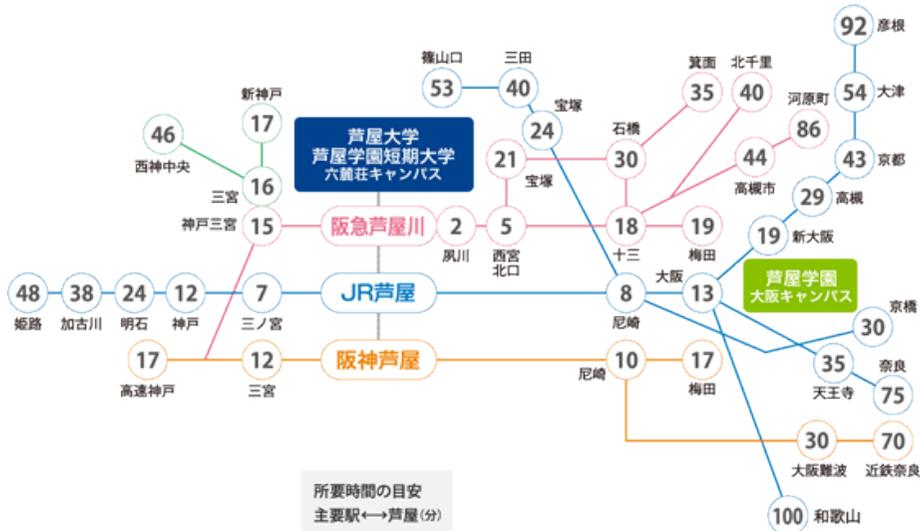
本学までのアクセス



学園バス(無料)停留所



<各駅からの所要時間>



◆シャトルバスダイヤ

8月26日(土)

行き				帰り	備考
阪神芦屋	阪急芦屋川	JR 芦屋	芦屋大学	芦屋大学	
8:25	8:30	8:35	8:48		9時受付開始
8:55	9:00	9:05	9:18		
9:00	9:05	9:10	9:25		
9:05	9:10	9:15	9:35		
9:18	9:23	9:30	9:45		
9:25	9:30	9:35	9:50		研究発表開始
	10:00	10:05	10:20		
11:00	11:05	11:10	11:25	11:10	
11:25	11:30	11:35	11:50	11:50	
	12:30	12:35	12:50	12:30	総会開始
13:10	13:15	13:20	13:35	14:00	
	14:35	14:40	14:55	14:40	
14:50	14:55	15:00	15:15	15:40	
				16:20	
				17:15	
				17:30	
				18:10	シンポジウム終了
				20:10	懇親会参加者用
				20:30	懇親会参加者用

8月27日(日)

行き				帰り	備考
阪神芦屋	阪急芦屋川	JR 芦屋	芦屋大学	芦屋大学	
8:25	8:30	8:35	8:48		9時受付開始
9:05	9:10	9:15	9:30		
9:15		9:20	9:35		
	9:15	9:20	9:35		
9:15	9:20	9:25	9:40		
9:20	9:25	9:30	9:45		研究発表開始
10:35	10:40	10:45	11:00		
11:35	11:40	11:45	12:00	12:10	
12:35	12:40	12:45	13:00	12:30	
13:35	13:40	13:45	14:00	13:10	
				13:30	
				14:10	
				14:40	
				15:10	
				15:40	
				16:30	
				17:00	合同研究会終了
				17:30	

※芦屋大学バス停到着後、受付まで徒歩約10分かかりますのでご注意ください。

10時までに受付を済ますには、太字時刻のバスに乗車してください。

◆ 受付について

シャトルバスの到着時間や本数上、例年の受付時間である9時30分からでは非常に混雑し、10時の研究発表時間に間に合わない可能性があります。そのため、今年度は受付開始時間を**9時**からとさせていただきます。恐れ入りますが、少し余裕をもってご参加いただきますようご協力お願いいたします。

◆ 昼食について

26日、27日ともに食堂が利用できます。**受付にて学会参加者用特別食事チケット**をご購入ください。なお、1日目の26日に2日間分のご購入することも可能です。**1食あたり500円**となります。

飲料については、食堂もしくは自動販売機にてご購入ください。売店はございません。

◆ 懇親会について

今年度の懇親会については、学生やプロによるダンスや演奏を予定しております。会場には人数制限がございますので、出来るかぎり事前の参加申込を行ってください。多数のご参加をお待ちしております。

◆ 宿泊について

宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。開催時期は、全国高等学校野球選手権大会の時期であり、ホテルが込み合いますので余裕をもってご予約ください。

◆ タクシー電話番号

シャトルバス乗車の待ち時間が長い場合には、下記のタクシー会社をご利用ください。

- ・阪神タクシー： 0570-025-084
- ・阪急タクシー： 0797-32-1421
- ・第一タクシー： 0120-198-8441
- ・MKタクシー： 078-303-6001

◆ お願い

学会当日26日については授業日・部活日、27日はオープンキャンパス日となりますのでご配慮いただきますようお願いいたします。また、シャトルバスや学内での混雑が予想されます。特に、シャトルバスについては学会用の貸し切りではございませんので、満員になり次第、出発したり、乗車できない場合があります。26日朝の受付には前記シャトルバスダイヤの**太字時刻**にご乗車いただきますようお願いいたします。